

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	サイラボ西宮北口教室		
○保護者評価実施期間	2025年12月5日		～ 2025年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数) 8人
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者から「専門性のある支援が受けられている」と評価されており、こどもの特性を深く理解した専門性の高さが強みと考えられる。	職員全員が参加するスーパーバイズを継続的に実施しており、支援技術や知識のアップデートを欠かさない体制が整っている。	SVで得られた知見を定期的なチーム会議で共有し、実践的な指導を通して現場の支援に完全に浸透させるように進める。

2	保護者から「こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で個別支援計画が作成されている」と評価されており、ニーズを反映した計画作成の質の高さが強みと考えられる。	臨床心理士・公認心理師が個別支援計画作成前に、保護者とこどもの状況について詳細なヒアリングとアセスメントを実施する体制が確立されている。	臨床心理士・公認心理師によるヒアリングとアセスメントについて、手順を明文化したマニュアルを作成し、支援計画作成の基盤となる質の標準化を図る。
3	保護者から「日頃からこどもの状況を伝え合い、健康や発達の状況について共通理解ができている」と評価されており、保護者との密な連携が強みと考えられる。	サービス提供記録を活用し、日々の些細な変化も見逃さないよう、保護者と職員間での情報共有を徹底するとともに、毎回のセッション後にフィードバックの時間を設けている。	保護者との情報共有とフィードバックの手順について共通理解を図り、全ての職員が一定水準以上の質の高い連携を実施できる体制を構築する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや地域の他のこどもと活動する機会の提供が難しく、地域社会との連携や交流が主要な課題だと認識している。	安心・安全な事業所内での支援を優先とし、外部との接触を慎重にしている背景がある。	地域の関係機関と協力体制を確立し、地域連携のための必要な取り組みや工夫を検討する。
2	父母の会の活動支援や保護者会等の開催による保護者・きょうだい間の交流機会の提供は、「いいえ」「どちらともいえない」の評価があり、保護者及びきょうだいへの間接的な支援について、充実させていく必要があると思われる。	ご利用いただいているお子様とその保護者様への個別の直接支援に注力している背景がある。	個別支援の質と量を拡充し、保護者の負担軽減を図るとともに、保護者・きょうだい間の交流ニーズに対応するため、強制参加ではなく、希望者が気軽に参加できる交流会や、自宅から参加可能なオンライン交流会など、柔軟な形でのコミュニティ形成を検討する。

3	家族支援プログラムや家族向けの研修会・情報提供の機会が不足しているため、その拡充が必要と考えている。	日々の個別支援や、送迎時の保護者様への相談援助を中心としている背景がある。	ご要望等に応じ、家族全体の課題解決に繋がるようなテーマを選定し、ご家族全体を対象にした研修会や学習機会の企画・開催、またそれに準ずる情報提供などを検討していく。
---	--	---------------------------------------	--